

「税金で照らす日本の明日、そして未来へひと夏の学びを踏まえて」

新潟大学教育学部附属長岡中学校

三年 高田 優心

税の作文を書く宿題が出た。今まで「何で国にお金を払う必要があるの？」などと思ってきた私にとって、その宿題は限りなく不可能に近かった。

ところが、夏休みに入ってから、見兼ねた母が、インターネットやパンフレットなどの資料を集めてくれた。宿題の為に嫌々読み始めたが、すぐに「もっと知りたい」と思った。最初に身近な税の使い道に興味を持った。例えば私の教育費や医療費も税金で驚いたし、それ以外にもごみの処理費用や道路などの建設費も税金だと知った。それらを知ると、「じゃあ、どのように集めているのだろう。」というように次々に疑問が生まれ、その疑問を解決させたくて、ひたすら資料を読み込んだ。そして、最終的には資料もかなりボロボロになった。

「税金を納めることは私たちの明日、また、その先の未来への投資である。」

これが、私の夏休みの学びを基に出した結論だ。私は今日も

そう思いながら、定価六百円、消費税込みで六百四十八円のシャーペンを購入し、四十八円を投資した。この四十八円は何に使われるのだろうか。遠くの町で橋が完成して誰かの暮らしが便利になるかも知れない。もしかしたら、将来私の子どもも教育費になるかも知れない。このように、誰かの納めたお金が、形を変えて誰かを助けたり、自分に返ってきたりするものが税金であると思う。税金は今まで、私たちに多くの豊かさや利便性をもたらしてきた。しかしながら、現在、ニユースなどで税金のムダ遣いや悪用が取り上げられる事例も珍しくない。税の使い道、つまり、何の為にどのくらい投資するかを実際に決めるのは議員や政治家である。その人たちにはより多くの人が幸せになれる選択をしてもらいたい。最も重要なのは、私たちがもつと政治への関心を持ち、自分の納めたお金が一体どのように使われるべきなのか、一人の納税者として今一度考え直すことではないだろうか。

私たちは「税金を納める」ことで、自らの手で暮らしの明日、日本の未来を創っている。そして、一人ひとりに、その役割と義務が存在する。これからは、私がそうしたように、より多くの人がこのことを自覚し、それに伴う責任まで考えていくことが必要だと思う。

私が大人になる頃には、少子高齢化の影響で社会保障の負担が重くなることを考えられる。しかし、私はきちんと自分の役割として税金を納め、明るい未来を信じて投資を続けていきたい。

— 今日私投資で誰かが笑っていることを願う。